

今日も笑顔の花を咲かせます

金武町立金武小学校 六年 金城 くらら

「くらら、お母さんのために笑っていてね。くららの笑顔が、お母さんに元気をくれるから。」

母にそんなことを言われたことがあります。

「みんなが笑顔。ニコニコの表情なら、一番いいよね。」

学校では先生とそんな話をしたこともありました。

家でも学校でもそんな話題になるのは、笑顔あふれる社会ではないからかもしれないとは思いました。いじめや殺傷事件が毎日のようにニュースから流れます。世界では、まだ戦争をしている国もあります。戦争や事件によって家族や大切なものを失う人も、決して少なくないのが現実です。

「誰もが平和で暮らせますように。」

人々の当たり前のようなそんな願いが、届いていないのが今の社会なのかと、考えました。母が求める笑顔、先生が望む笑顔、それが広がる社会をつくるために私には何ができるか考えました。

ある時、手にした戦争記録の写真集には、悲しみと苦しみしか感じられない顔がたくさんありました。家族を失った悲しみ、幸せをうばわれた苦しみ、一人ぼっちになった孤独感……。そんな感情がどのページからもうかがえました。

「笑顔がない。笑顔なんてできるわけがない。」そう気づいたときに、今私達がおかれている状況を客観的に見つめることができました。

私は、家族そろって食事をして団らんをします。そして朝は元気に登校します。すると、学校には友達がいて、競い合って勉強をしたり、楽しく遊んだりします。部活動にも参加します。同じ目標を持って練習に励むこと

で、友情が生まれたり、絆が深まったりもします。そんな日常には笑顔があふれます。困難にぶつかっても、それを乗り越えたときに笑顔があふれます。

そうした日常の中にこそ幸せがあり笑顔があるのだということに私はこれまで気づかなかったように思います。気づかずに自然と笑顔になれることの幸せを今気づきました。そして、いじめや事件の中にいる人々には、そんな当たり前の日常がないということも知ったのです。幸せや笑顔は、決して特別なことではありません。家族と共に過ごす、社会の中に居場所がある。信頼できる友人がいる。そんなに日常こそが笑顔をつくり、笑顔の花を咲かせるのだと私は思います。

誰もがその当たり前の日常を手に入れるために私にできること、それは自分から声をかけ、関わること、まずはあいさつです。あいさつを通して笑顔の種をまきます。ひとつの種が花を咲かせ、その花が別の種をまきます。そうして、笑顔の花がどんどん増えていく社会にしたい、私はそんな風に思いました。

私が考える平和とは、多くの人に笑顔の花が咲いていることです。忙しかったりつかれていたりすると、私の笑顔の花はしぼんでしまいます。でも友人に声をかけてもらったり家族に支えてもらったりすると、また笑顔の花が咲き始めます。

七十数年前の沖繩には、笑顔の花は咲いていなかったでしょう。悲しみ、苦しみ、おそろしさ、くやしき……。そんな感情が、ここ沖繩を埋めつくしていたと想像します。でも今はちがいます。笑顔の花が所々に咲いています。この花を社会一面に広げていきたい、それが私の願いです。今、現実起こっている戦争をやめさせたり、全ての人に幸せを与えたりすることなど、私にはとうていできません。しかし、母や学校の友達など自分の周りの人に笑顔の種をまき、笑顔の花を咲かせることはできるはずです。その積み重ねが社会一面に広がる笑顔の花になると信じて、私は今日も笑顔の花を咲かせます。